

第1 吹田市肺がん検診及び結核検診実施状況

【受診率の算出方法】

- ・算出対象は40～69歳。
- ・対象者数 = 当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率 = (当該年度の受診者数 ÷ 対象者数) × 100

【初回受診者について】

- ・前年度に吹田市肺がん検診の受診歴がある場合は「非初回」、受診歴がない場合は「初回」に分類される。

【プロセス指標[※]の算出方法】

- ・要精検率 = 要精検者数 ÷ 受診者数 × 100 ・精検受診率 = 精検受診者数 ÷ 要精検者数 × 100
- ・早期がん割合 = 早期がん ÷ がん発見数 × 100 ・がん発見率 = がん発見数 ÷ 受診者数 × 100
- ・陽性反応適中度 = がん発見数 ÷ 要精検者数 × 100

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は各プロセス指標値の基準値を決定し公表している。

【参考】精度管理指標と基準値(40～69歳)

精検受診率	90%以上
要精検率	2.0%以下
がん発見率	0.06%以上
陽性反応適中度	3.0%以上

参照：厚生労働省令和6年7月
がん検診の在り方に関する検討会

<喀痰検査について>

国の指針による対象者(50歳以上で、喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)600以上の方)にて集計。

(参考) 喀痰細胞診の指導区分

- A：判定不能
- B：異常なし
- C：6か月以内の再検査
- D：要精検(悪性の可能性のある細胞を認めたため、精密検査が必要)
- E：ただちに要精検(悪性の腫瘍細胞を認めたため、早急に精密検査が必要)

1 肺がん検診実施状況(令和7年12月15日時点)

(1) 年次別肺がん検診受診者数及び受診率

表1-1 令和4年度～令和7年度(4～9月)肺がん検診実績(40～69歳)

年 区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (4～9月)
対象者数	149,812	150,777	151,854	
受診者数	9,350	8,896	8,729	3,920
受診率	6.2%	5.9%	5.7%	
初回受診者数	3,927	3,612	3,613	1,654
初回の割合	42.0%	40.6%	41.4%	42.2%

参考：令和5年度受診率比較(40～69歳)

	全国 ¹⁾	大阪府 ²⁾	吹田市 ²⁾
受診率	5.9%	4.8%	5.9%

出典：1) 令和5年度地域保健・健康増進事業報告

2) 大阪府におけるがん検診令和5年度(2023年度)

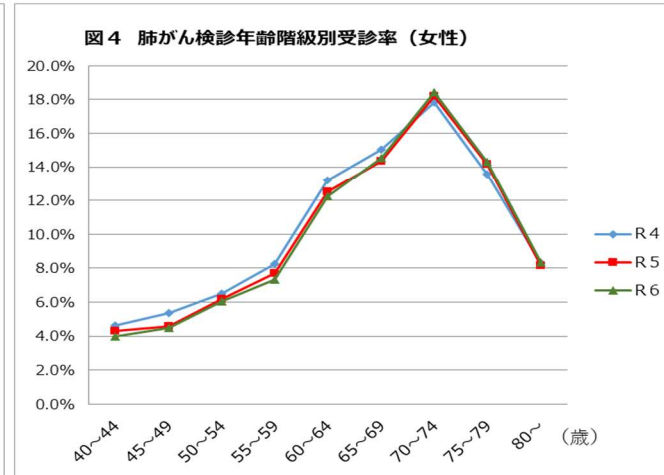
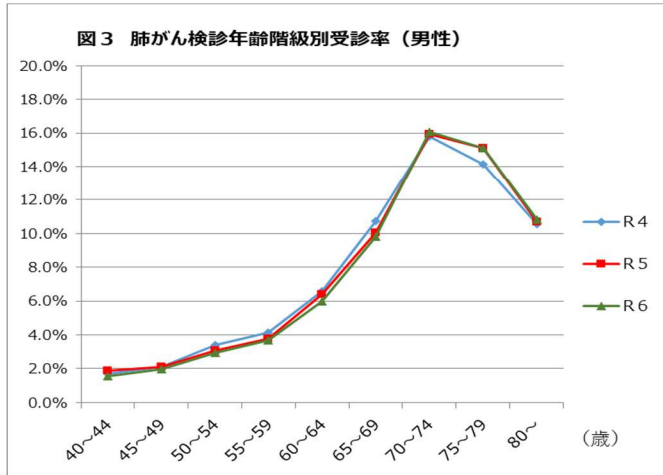
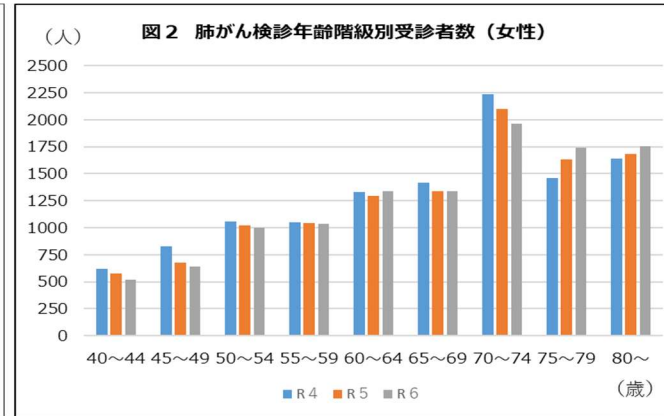
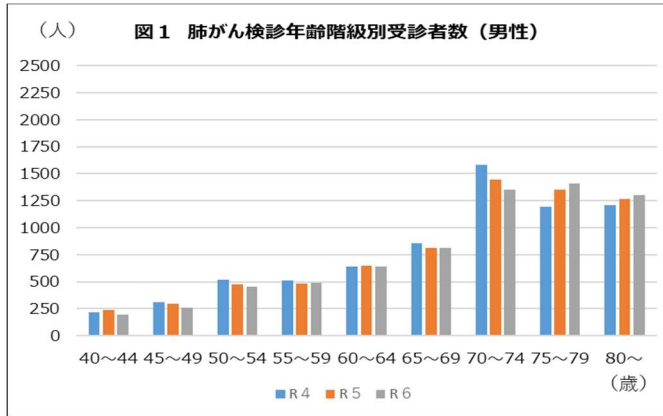
表1-2 令和4年度～令和7年度(4～9月)肺がん検診実績(40歳以上全年齢)

	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度(4～9月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	222,810			221,793			225,527					
受診者数	17,928	744	18,672	17,705	668	18,373	17,726	528	18,254	8,652	188	8,840
受診率	8.0%	0.3%	8.4%	8.0%	0.3%	8.3%	7.9%	0.2%	8.1%			
初回受診者数	6,639	313	6,952	6,321	296	6,617	6,377	231	6,608	3,286	96	3,382
初回の割合	37.0%	42.1%	37.2%	35.7%	44.3%	36.0%	36.0%	43.8%	36.2%	38.0%	51.1%	38.3%

【結果】

- ・令和6年度の40～69歳の受診率は、個別検診・集団検診を合わせると5.7%であった。令和5年度より0.2ポイント減少している。(表1-1)
- ・令和6年度の40歳以上の全年齢での受診率は、個別検診・集団検診を合わせると8.1%であった。令和5年度より0.2ポイント減少している。(表1-2)
- ・令和6年度は受診率、受診者数ともに減少している。(表1-1、1-2)
- ・各年度ともに初回受診者の割合は、個別検診と比べて集団検診が高い傾向である。(表1-2)

(2) 令和4年度～令和6年度 肺がん検診性別・年齢階級別受診者数・受診率



【結果】

- ・年齢階級別受診者数では、男性は75～79歳、女性は70～74歳が最も多い。年度別に比較すると、男女ともに54歳以下の若い年齢層と70～74歳で受診者数は減少傾向である。（図1、図2）
- ・各年度の各年齢階級とも、受診率は男性より女性のほうが概ね高くなっている。令和6年度は、男女ともに70～74歳の受診率が最も高い。令和5年度に比べ、男性では75～79歳の年代でやや増加し、69歳以下でやや低下している。女性では70歳以上でやや増加し、69歳以下の年代でやや低下している。（図3、図4）

(3) 年次別要精検者の状況について

ア 40～69歳の年次別要精検者の状況

表 1-3 令和4年度～令和7年度（4～9月） 肺がん検診要精検者内訳【40～69歳】（X線判定：E 喀痰判定：D・E）

	令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度				
	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	
	個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		
受診者数	8,838	512	377	9,350	8,431	465	342	8,896	8,367	362	340	8,729	3,787	133	174	3,920	
要精検者数	220	9	0	229	207	11	0	218	212	12	0	224	82	3	0	85	
要精検率	2.5%	1.8%	0.0%	2.4%	2.5%	2.4%	0.0%	2.5%	2.5%	3.3%	0.0%	2.6%	2.2%	2.3%	0.0%	2.2%	
精検受診者数	215	8	—	223	203	10	—	213	204	12	—	216	68	3	—	71	
精検受診率	97.7%	88.9%	—	97.4%	98.1%	90.9%	—	97.7%	96.2%	100.0%	—	96.4%	82.9%	100.0%	—	83.5%	
精検結果内訳	異常なし	112	5	—	117	98	2	—	100	85	7	—	92	23	3	—	26
	がん	5	0	—	5	4	1	—	5	4	0	—	4	1	0	—	1
	がん疑い	1	0	—	1	1	0	—	1	2	0	—	2	5	0	—	5
	GGO/GGN	1	0	—	1	0	0	—	0	1	0	—	1	0	0	—	0
	転移性肺腫瘍	1	0	—	1	0	0	—	0	0	0	—	0	1	0	—	1
	活動性結核	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	0
	その他	95	3	—	98	100	7	—	107	112	5	—	117	38	0	—	38
未受診/未把握	5	1	—	6	4	1	—	5	8	0	—	8	14	0	—	14	
がん発見率	0.06%	0.00%	0.00%	0.05%	0.05%	10.00%	0.00%	0.06%	0.05%	0.00%	0.00%	0.05%	0.03%	0.00%	0.00%	0.03%	
陽性反応適中度	2.3%	0.0%	0.00%	2.2%	1.9%	9.09%	0.00%	2.3%	1.9%	0.00%	0.00%	1.8%	1.2%	0.00%	0.00%	1.2%	

【参考】精度管理指標と基準値<40～69歳>

精検受診率	90%以上
要精検率	2.0%以下
がん発見率	0.06%以上
陽性反応適中度	3.0%以上

参照：厚生労働省令和6年7月
がん検診の在り方に関する検討会

【参考】プロセス指標比較<令和4年度>（40歳以上）

	全国	大阪府	吹田市
要精検率	2.12%	2.41%	3.30%
精検受診率	82.4%	86.9%	95.7%
がん発見率	0.06%	0.08%	0.09%
陽性反応適中度	2.62%	3.47%	2.80%

参照：国立がん研究センター がん情報サービス
「がん登録・統計」がん検診のプロセス指標

【結果】（表 1-3）

- ・要精検率は、令和6年度は2.6%で基準値2.0%以下を上回っており、基準値を満たしていない。
- ・精検受診率は、96.4%で基準値90%以上を満たしている。
- ・がん発見率は、令和6年度は0.05%で基準値0.06%以上を満たしていない。
- ・陽性反応的中度は、1.8%で基準値3.0%以上を満たしていない。

イ 40歳以上全年齢の年次別要精検者の状況

表 1-4 令和4年度～令和7年度（4～9月） 肺がん検診要精検者内訳【40歳以上全年齢（X線判定：E 喀痰判定：D・E）】

	令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度				
	X線E判定		喀痰D・E判定	合計	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	
	個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		
受診者数	17,928	744	971	18,672	17,705	668	926	18,373	17,726	528	918	18,254	8,652	188	472	8,840	
要精検者数	595	16	1	611	639	19	0	658	600	23	0	623	259	5	0	264	
要精検率	3.3%	2.2%	0.1%	3.3%	3.6%	2.8%	0.0%	3.6%	3.4%	4.4%	0.0%	3.4%	3.0%	2.7%	0.0%	3.0%	
精検受診者数	569	15	1	585	632	17	-	649	568	23	-	591	214	5	-	219	
精検受診率	95.6%	93.8%	-	95.7%	98.9%	89.5%	-	98.6%	94.7%	100.0%	-	94.9%	82.6%	100.0%	-	83.0%	
精検結果内訳	異常なし	217	9	-	226	236	3	-	239	189	11	-	200	76	4	-	80
	がん	17	0	-	17	18	1	-	19	15	0	-	15	3	0	-	3
	がん疑い	7	0	-	7	8	0	-	8	9	0	-	9	9	0	-	9
	GGO/GGN	5	0	-	5	6	0	-	6	3	0	-	3	1	0	-	1
	転移性肺腫瘍	3	0	-	3	1	0	-	1	1	0	-	1	1	0	-	1
	活動性結核	0	0	-	0	1	0	-	1	1	0	-	1	0	0	-	0
	その他	320	6	1	327	345	13	-	358	350	12	-	362	124	1	-	125
未受診/未把握	26	1	-	27	24	2	-	26	32	0	-	32	45	0	-	45	
がん発見率	0.09%	0.00%	0.00%	0.09%	0.10%	5.88%	0.00%	0.10%	0.08%	0.00%	0.00%	0.08%	0.03%	0.00%	0.00%	0.03%	
陽性反応適中度	2.9%	0.0%	0.00%	2.8%	2.8%	5.26%	0.00%	2.9%	2.5%	0.00%	0.00%	2.4%	1.2%	0.00%	0.00%	1.1%	

【参考】精度管理指標と基準値(40～74歳)

精検受診率	90%以上
要精検率	2.4%以下
がん発見率	0.10%以上
陽性反応適中度	4.1%以上

参照：厚生労働省令和6年7月
がん検診の在り方に関する検討会

【結果】(表 1-4)

- ・要精検率は、令和6年度は3.4%で基準値2.4%以下を上回っており、基準値を満たしていない。
- ・精検受診率は、94.9%で基準値90%以上を満たしている。
- ・がん発見率は、令和6年度は0.08%で基準値0.10%以上を満たしていない。
- ・陽性反応的中度は、令和6年度は2.4%で基準値4.1%以上を下回っており、基準値を満たしていない。

2 肺がん検診(個別検診)のX線判定状況 (令和7年12月15日時点)

<p><X線判定について> (吹田市の読影体制)</p> <p>一次読影にて d・e判定：要精検 b・c判定は二次読影へ</p> <p>二次読影にて b・c判定：最終判定をb・c判定として一次医療機関に結果返却</p> <p>二次読影にて d・e判定：読影委員会(三次読影)へ</p>	<p>(参考) X線判定の意味 (最終判定は大文字で記載)</p> <p>b：異常所見を認めない</p> <p>c：異常所見を認めるが、精査を必要としない</p> <p>d：異常所見を認めるが、肺がん以外の疾患が考えられる(肺がんは否定)</p> <p>e：肺がんの疑い ※国の報告に従い、E判定を肺がん検診要精検とする</p>
--	--

表 2-1

令和6年度肺がん個別検診読影内訳(人) 受診者数 17,726人

〈一次読影〉		〈二次読影〉		※〈読影委員会〉	
b	14,420	b	13,632	B	61
c	2,993	c	3,345	C	59
d	29	d	6	D	1
e	284	e	431	E	316
合計	17,726	合計	17,414	合計	437

※一次読影 d 判定の 29 名の内、1 名は二次読影 b 判定となり、最終判定 B 判定となっている。

B	13,693	77.2%
C	3,404	19.2%
D	29	0.2%
E	600	3.4%

がん	4
うち0～I期がん	3
陽性反応的中度	1.3%
がん照会中	5

【結果】

・令和6年度は受診者数 17,726 人の中、一次読影で b・c 判定となった 17,413 人と、一次読影医の希望により一次読影 d 判定の 1 名の合計 17,414 名に対して二次読影を実施し、d・e 判定となった 437 人に対して三次読影を実施している。読影委員会で E 判定となった 316 人の中、肺がんと診断されたのは 4 人であった。

表 2-2

令和7年度(4～9月)肺がん個別検診読影内訳(人) 受診者数 8,652人

〈一次読影〉		〈二次読影〉		※〈読影委員会〉	
b	7,030	b	6,727	B	21
c	1,466	c	1,604	C	25
d	16	d	7	D	0
e	140	e	158	E	119
合計	8,652	合計	8,496	合計	165

B	6,748	78.0%
C	1,629	18.8%
D	16	0.2%
E	259	3.0%

3 肺がんであったケースの詳細（令和7年12月15日時点）

表 3-1 令和6年度 肺がん個別検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・臨床病期分類が確定している16人のうち、初回11人、非初回5人だった。初回の11人のうち4人がⅠ期、7人がⅡ期以上で発見されている。非初回5人のうち、3人がⅠ期、2人がⅡ期以上で発見されている。非初回で臨床病期分類がⅡ期以上の2人については、前年度の肺がん検診の結果は、いずれも最終判定 B 判定だった。
- ・臨床病期分類が確定している16人のうち、組織型は腺がん11人、扁平上皮がん2人、神経内分泌腫瘍1人、不明が2人であった。なお、令和6年度に肺がん及び肺がん疑いと診断された26人のうち、喫煙者（過去喫煙者も含む）は15人であった。

表 3-2 令和7年度（4～9月） 肺がん個別検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・令和7年度に肺がん及び肺がん疑いと診断された12人のうち、臨床病期分類が確定しているのは1人、肺がんにて詳細確認中が2人、肺がん疑いにて医療機関照会中が9人である。

4 個別検診における詳細なプロセス指標について

(1) 一次医療機関ごとのプロセス指標(資料4)

【結果】

・令和6年度に受診者がいた協力医療機関は 124 医療機関であった。要精検率が基準値を達成している医療機関は 26 医療機関、精検受診率が基準値を達成している医療機関が 78 医療機関、がん発見率が基準値を達成している医療機関は 13 医療機関、陽性反応適中度が基準値を達成している医療機関は 12 医療機関であった。

(2) 二次読影医のプロセス指標 (二次読影医別プロセス指標：資料5)

表4 二次読影の判定状況(吹田市全体)

	二次読影数 (人) ※1	読影委員会対象者 (人) ※2	要精検者数 (人) ※3	要精検率	精検受診者数 (人)	精検受診率	がん発見数		がん発見率	陽性反応 適中度	
							0～I期がん (再掲)	0～I期がん 割合			
令和6年度	17,414	437	316	1.8%	298	94.3%	4	3	75.0%	0.02%	1.3%

※1：一次読影にてb・cと判定した数 ※2：二次読影にてd・eと判定した数 ※3：最終読影にてEと判定した数

【結果】

・要精検率、精検受診率は基準値を満たしている。がん発見率、陽性反応適中度については基準値を下回っており、基準値を満たしていない。

【参考】精度管理指標と基準値(40～74歳)

精検受診率	90%以上
要精検率	2.4%以下
がん発見率	0.10%以上
陽性反応適中度	4.1%以上

参照：厚生労働省令和6年7月
がん検診の在り方に関する検討会

5 結核検診実施状況(令和7年12月15日時点)

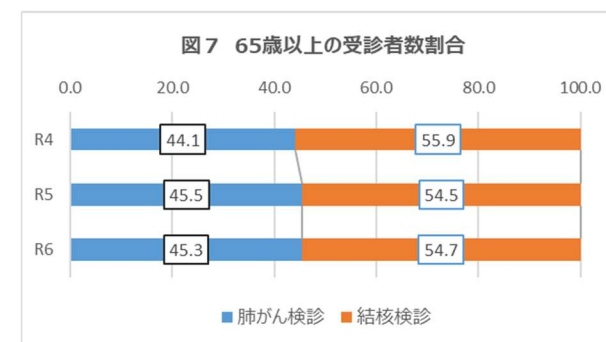
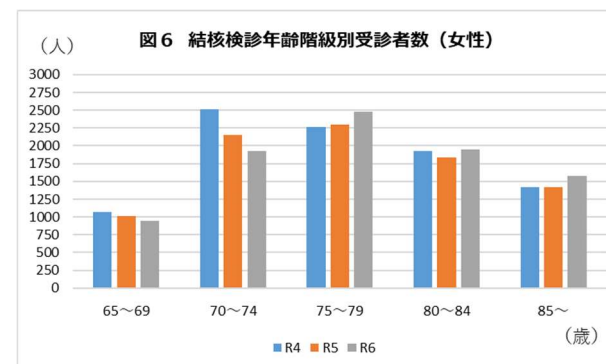
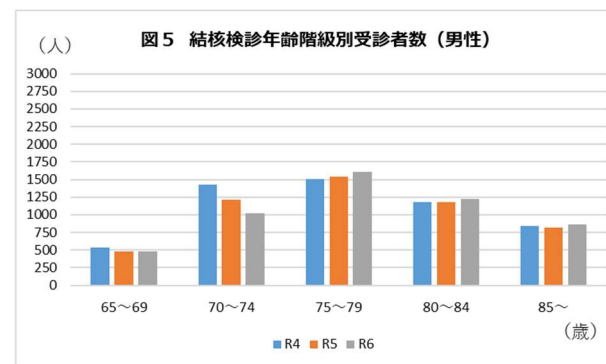
表5 令和4年度～令和7年度（4～9月） 結核検診実績

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (4～9月)
対象者数		90,403	90,949	91,144	
受診者数		14,676	13,954	14,076	5,786
受診率		16.2%	15.3%	15.4%	
要 精 検 者 数	結核疑い	44	42	44	23
	肺腫瘍性病変	327	309	294	103
	合計	371	351	338	126
要精検者率		2.5%	2.5%	2.4%	2.2%
精検受診者数		327	315	296	99
精検受診率		88.1%	89.7%	87.6%	78.6%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	97	113	116	19
	活動性結核	0	0	0	0
	がん	9	7	7	1
	転移性肺腫瘍	2	0	0	0
	がん疑い	9	7	6	4
	その他	210	188	167	75
未受診/未把握		44	36	42	27
がん発見率		0.06%	0.05%	0.05%	0.02%
陽性反応適中度		2.43%	1.99%	2.07%	0.79%

・結核検診の対象者は、65歳以上（感染症法第53条の2第3項に基づく検診）

【結果】

- ・令和6年度の受診者数は、男女ともに75～79歳が最も多い。（図5、図6）
- ・65歳以上の受診者割合では、肺がん検診に比べて結核検診受診者の方が多い。（図7）
- ・結核検診にて発見された活動性結核の者は、令和4年度以降、令和7年度9月受診者まで0人であった。（表5）



6 結核検診にて肺がんであったケースの詳細（令和7年12月15日時点）

表 6-1 令和6年度 結核検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 6-2 令和7年度(4～9月) 結核検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・令和6年度に肺がんと診断された14人のうち、臨床病期が確定しているのは8人であり、初回が5人で非初回が3人だった。非初回の3人のうち1人がⅡ期以降で発見されており、前年度結核検診の結果は異常なしであった。組織型は、腺がん7人、扁平上皮がん1人であった。（表6-1）
- ・令和7年度に肺がんと診断された又は肺がん疑いと診断された5人については、現在医療機関照会中である。（表6-2）